

5月27日に本校3年生を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとまりました。本調査は国語と数学の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、学力と生活習慣との関係など、調査から見とれる本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果

学力調査における本校生徒の平均正答率は国語・数学ともに全国平均・京都府平均並みでした。学習指導要領の領域別の正答率では、本校・全国・京都府ともに国語に関しては「話すこと・聞くこと」が高く、「書くこと・読むこと」が低い傾向が、数学に関しては「数と式・関数」が高く、「図形・資料の活用」が低い傾向が見られます。

学習に関する意欲や環境、生活の諸側面の調査では、全国・京都府と比較してテストなど問題を最後まで解答を書こうとする努力や主体的・対話的で深い学び、ICT 機器の活用、友達との協力においては意識の高さが見られましたが、将来の夢や目標につながる自己有用感や家庭での学習習慣の意識の低さが目立ちました。（下記参照）

国語科より

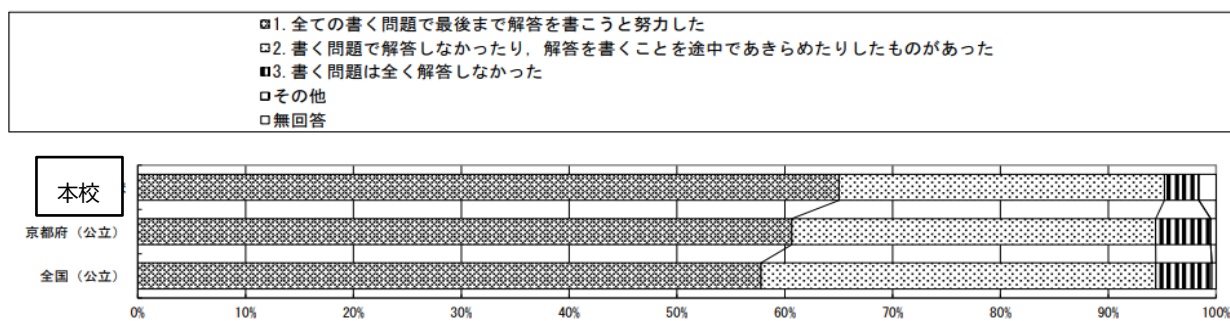
「書く」「読む」領域が全国水準を上回り、「話す」「聞く」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域ではやや下回りました。記述式のすべての問題で、全国水準と同等もしくは上回る結果となり、「条件に合わせて書く」ことができていました。「無回答」は少ない傾向にあり、どの問題に対してもしっかり取り組もうとする姿勢が伺えました。語彙力は国語力・読解力の基礎となるものなので、普段からわからない漢字や言葉に出会ったら辞書をこまめに引くなど、日常生活の中で積極的に行うことを心がけましょう。

数学科より

「資料の活用」領域では全国水準を上回ったことから資料から必要な値を求めたり、データを比較したりする力が定着しつつあると考えられます。一方「図形」領域では下回る結果となり、「中心角60度の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ」問題では正答率が最も低い結果となりました。図形に関する基本となる知識の定着や、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる力をつけることが課題といえます。

生徒質問紙調査から

Q 今回の数学の問題では、言葉や数式を使って説明する問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか。



Q 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。学習塾や家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間を含む。（＊平日の放課後も同じような結果でした。）

